

本年度のウズラの非繁殖期調査結果について

1. 調査の背景

1980年代以降、狩猟によるウズラの捕獲数は激減し、平成19(2007)年6月に行われた狩猟鳥獣の見直しにより、平成19(2007)年9月15日からウズラは狩猟が禁止されることとなった。

この狩猟禁止措置の効果検証のため、ウズラの生息状況等をモニタリングする手法等の調査検討を平成19(2007)年度より開始した。以下にこれまでに実施した現地調査の結果を示した。

ウズラの非繁殖期(越冬期)試行調査結果 猟犬による追い出し調査

調査地域		調査日	踏査距離 (km)	確認数	生息密度 (個体/km)
宮崎県	一ツ瀬川左岸	2009年12月9日	2.83	5	1.77
		2011年1月12日	2.33	0	0.00
		2012年1月10日	2.85	0	0.00
	一ツ瀬川右岸	2009年12月9日	2.48	2	0.81
		2011年1月12日	1.64	0	0.00
		2012年1月10日	2.59	0	0.00
加江田川	2012年1月11日	2.07	2	0.97	
熊本県	阿蘇山	2010年1月6日	5.25	10	1.90
		2011年1月13日	5.91	3	0.51
		2012年1月12日	5.16	2	0.39
	阿蘇山(別ルート)	2012年1月13日	7.64	0	0.00

これまでに九州の3地域で3期実施(2009・2011・2012年、12～1月)し、以下の知見を得た。

- ・ 調査時期や調査地によって結果に差があるが、猟犬の使用により効果的にウズラを発見できた。非繁殖期では、猟犬による追い出し調査が現状で最適な調査手法と考えられる。
- ・ 九州に渡来するウズラは、広大な草原環境以外に、休耕田や刈り取り後の水田にイネ科草本の生えている環境も利用していることが確認された。
- ・ ただし、耕起が開始された休耕田や刈り取り後の水田ではウズラは確認できず、調査時期は耕起開始前が望ましいことが示唆された。
- ・ 平野部では12月、高原では1月の確認数が多い。また、平野部の水田地帯では、1月の中旬以降は水田が耕起される。

以上の結果を受け、本年度の試行調査では、主に九州地方における適切な調査時期の把握のため、耕起時期や狩猟による影響を考慮し、調査時期を狩猟解禁日以前の11月中旬に設定した。

2. 調査地の選定

九州地方における調査地として、 から の4地域を選定した。また、関東地方における調査地として の1地域を選定した。

熊本県阿蘇市 宮崎県宮崎市 鹿児島県東串良町
福岡県宗像市 千葉県野田市

、 は過去に試行調査を実施し生息を確認している。 、 については過去にウズラを捕獲していた狩猟者（猟犬保有者）の調査協力が得られ、 については、2013年に生息情報が得られたことから、調査地として選定し、踏査ルートを設定した（図1～図6：赤線が調査ルート）。

3. 調査方法

猟犬による追い出し調査の方法を用いた。

狩猟者が猟犬に鳥類を追い立てさせ、飛び立たせて捕獲するという猟法の一部を応用した調査方法で、調査地に猟犬を放し、猟犬がウズラを発見して止まった（以下、「ポイントした」という）場所にて、周辺を同行調査員らが踏査し、ウズラを飛び立たせ、個体を確認する方法である。

調査は2013年11月11日～14日、12月24日に実施した（表1）。

表1 調査時期

調査地	調査環境	調査年月日
鹿児島県東串良町肝属川	河川敷	2013年11月11日
福岡県宗像市	水田(営農)	2013年11月12日
熊本県阿蘇市	放牧草地	2013年11月13日
宮崎県宮崎市一ツ瀬川河口	放棄水田	2013年11月14日
宮崎県宮崎市加江田川河口	水田(営農)	2013年11月14日
千葉県野田市	水田(営農)	2013年12月24日

4. 調査結果

本調査の結果、いずれの地域においてもウズラの生息は確認できなかった（表2）。

表2 調査結果

調査地	調査年月日	センサス距離 (Km)	確認羽数
鹿児島県東串良町肝属川	2013年11月11日	3.59	0
福岡県宗像市	2013年11月12日	1.48	0
熊本県阿蘇市	2013年11月13日	5.46	0
宮崎県宮崎市一ツ瀬川河口	2013年11月14日	1.12	0
宮崎県宮崎市加江田川河口	2013年11月14日	1.40	0
千葉県野田市	2013年12月24日	3.03	0

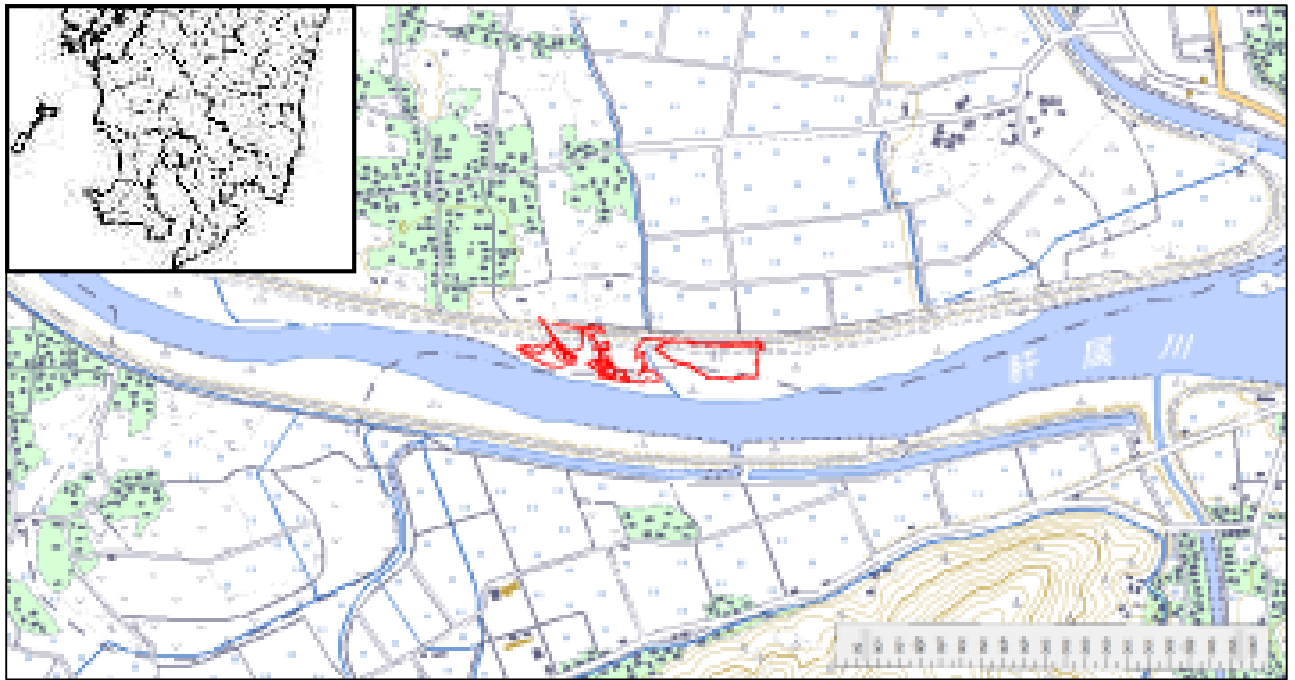


図1 踏査ルート(鹿児島県東串良町肝属川(河川敷)、ウズラの確認なし)

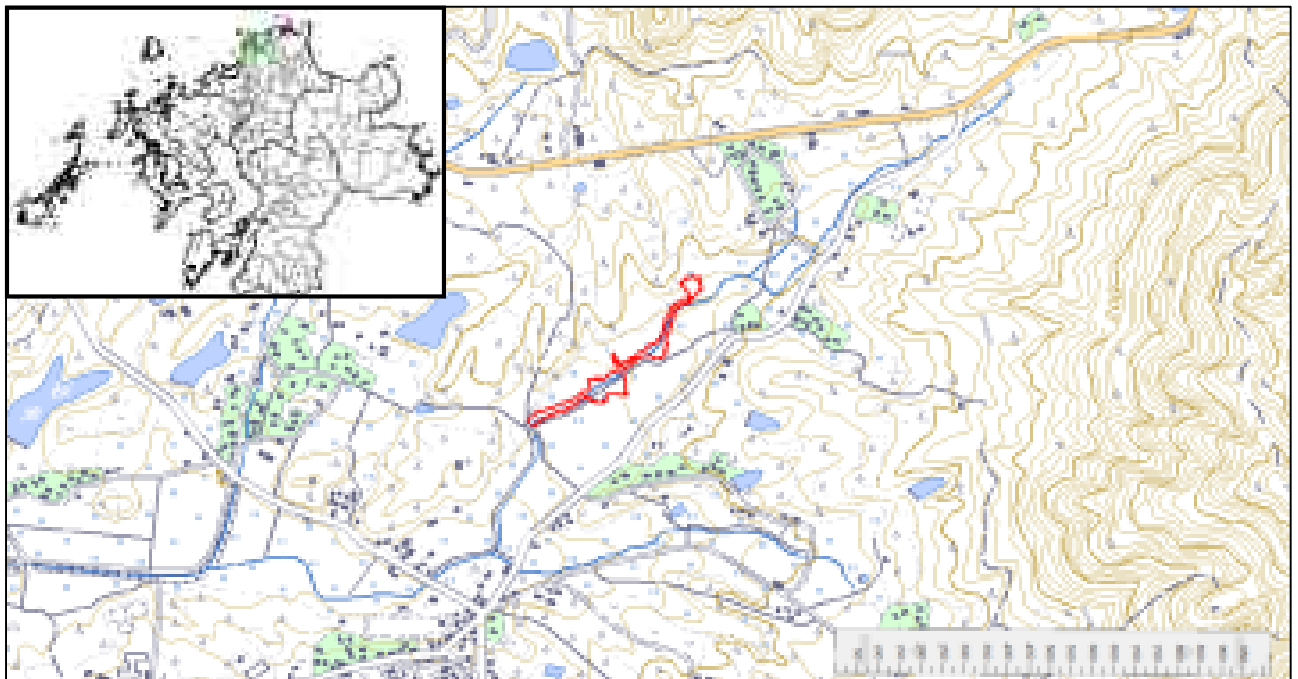


図2 踏査ルート(福岡県宗像市(水田地帯)、ウズラの確認なし)

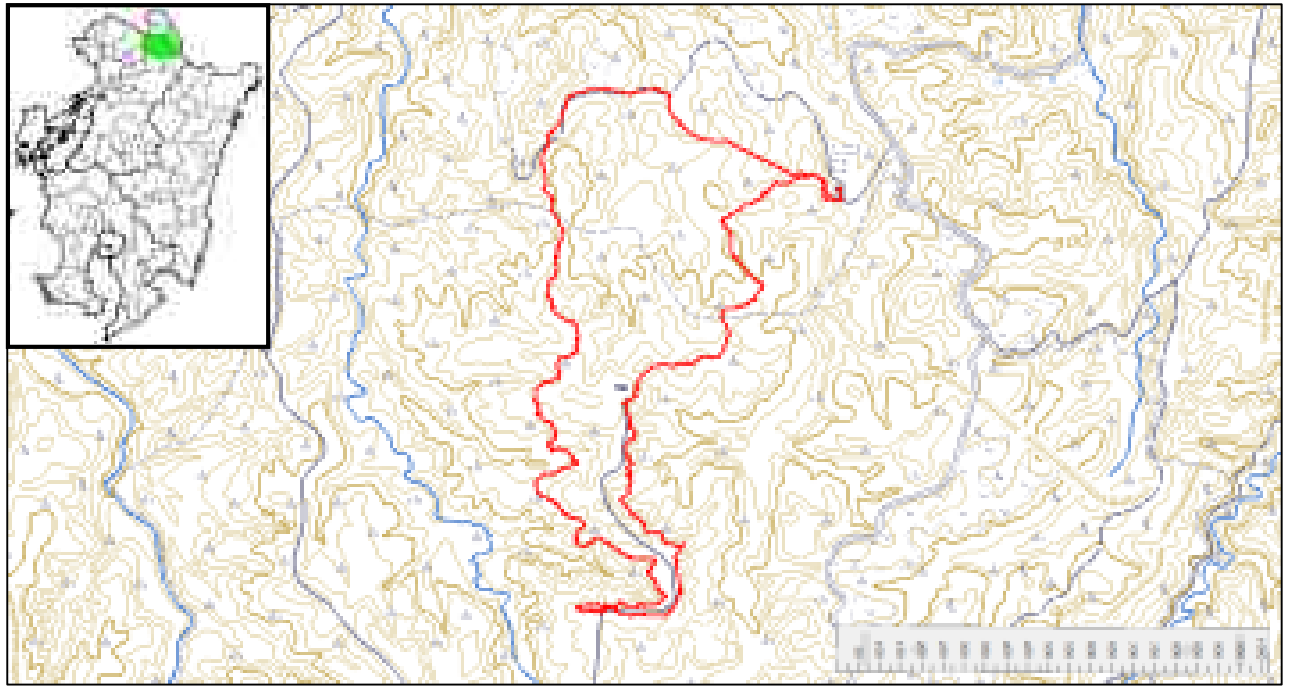


図3 踏査ルート(熊本県阿蘇市(放牧場)、ウズラの確認なし)



図4 踏査ルート(宮崎県宮崎市一ツ瀬川河口(放棄水田)、ウズラの確認無し)

左岸は圃場整備工事のため、実施できず



図5 踏査ルート(宮崎県宮崎市加江田川河口(水田地帯)、ウズラの確認無し)



図6 踏査ルート(千葉県野田市(水田地帯)、ウズラの確認無し)

5. 考察

(今年度の試行調査結果について)

11月中旬はいずれの調査地でもウズラを確認することはできなかった。現地調査に同行いただいた九州の狩猟者(ウズラ猟経験者)からの聞き取りによれば、「ウズラは気圧配置が冬型になり、大陸からの寒風が吹けば渡来する。今年は寒波が来ておらず、まだ渡来していないだろう」との意見をいただいた。調査結果と狩猟者からの意見から、11月は、年によってウズラがまだ渡来していない可能性があり、調査時期としては不適であることが示唆された。

一方、12月下旬に実施した千葉県でも、ウズラを確認することはできなかった。調査同行者(ウズラ猟経験者)からも、過去にほとんど生息を確認していないとの情報が得られている。これらのことから、毎年安定して一定数が渡来する九州地方と違い、関東ではそもそも極端に越冬期の生息数(渡来数)が少ない、又は不安定であるなどの理由が推測された。

(調査適期について)

過去に試行調査を実施した熊本県阿蘇市、宮崎県宮崎市のウズラ確認数経年変化を表3に示す。宮崎県一ツ瀬川河口では12月初旬に、熊本県では1月初旬に最大羽数が確認されている。宮崎県の調査地は、1月中旬以降、休耕田の耕起が始まり、水田内の草丈の低い雑草が消失する。また、鹿児島県の調査地では、12月初旬までソバ畑の栽培が続いており、耕作地地帯では調査ができない。そのため、九州地方における調査時期の最適期は、農作物の栽培していない時期とウズラが確実に生息する時期が重なる12月中旬から1月初旬までと考えられる。

表3 調査時期別のウズラの確認羽数(平成21年度～24年度の調査結果合計値)

調査地	11月	12月	1月
宮崎県(一ツ瀬川)	0羽	7羽	0羽
宮崎県(加江田川)	0羽	-	2羽
熊本県(阿蘇高原)	0羽	-	15羽

(調査適地及び体制について)

昨年度までの調査結果から、調査地の環境や体制についての以下にとりまとめた。

<調査地の環境>

これまでの試行調査では熊本県阿蘇市の高原草地のほか、宮崎県一ツ瀬川や加江田川河川敷の休耕田や耕起前の水田でウズラの生息を確認した。これらの調査地は、調査に協力いただいたウズラ猟経験者の猟場であった。九州地方における調査地としては、比較的規模の大きな草地が連続するような環境である、高原草地や休耕田、耕起前の水田などが適していることが示唆された。

<調査体制>

本調査方法の実施には、鳥猟用に訓練された猟犬が不可欠である。このため、犬による鳥猟を行っている地元猟友会員で、過去、ウズラ猟を行っていた方に協力いただくことが不可欠である。また、調査員は追い出されて飛び立った鳥がウズラであるかを判別能力が必要となる。

【参考：調査同行者（狩猟者）からの聞き取り情報】

(1) 今年度の調査同行者からの聞き取り情報

鹿児島県阿蘇町

- ・ 昨年はここに（調査地）数羽いるのを確認している。
- ・ 通常は今頃いるはず。
- ・ 今年は渡りが遅いのではないか。

宮崎県宮崎市

- ・ ウズラは寒風が吹けば、渡ってくる。
- ・ 福岡県にまだ渡来していないとなると、宮崎県（太平洋側）にはいない可能性が高い。
- ・ ウズラは乾いた水田に入る。今頃（11月中旬）は、まだ水田が乾いていない。

鹿児島県東串良町

- ・ 私は狩猟鳥だけではなく、小鳥の生息動向にも興味がある。このような調査はこのような調査は非常に興味があり、是非協力したい。
- ・ 志布志町周辺はソバを栽培している。収穫は12月初旬で、それまでは耕作地地帯に入れない。
- ・ ウズラは河川敷等の乾燥地帯に生息する。休耕田や水田へは水田が乾ききった時期に入る。
- ・ 例年は今の時期（猟期直前）にもいるが、今年は渡りが遅いのかもしれない。
- ・ 冬型の気圧配置になり、大型の寒気が入ってくるとウズラも渡ってくる。
（ 調査後、12月12日にウズラ初認の連絡をいただいた。）
- ・ 狩猟者が年々少なくなっている。イノシシの被害が多い。

福岡県宗像市

- ・ 例年ではこの時期にはウズラはいるが、今年は鳥の渡りが遅い。カモ類も渡来が遅い。
- ・ 昨年は、ここに（調査地）5～6羽いた。
- ・ ウズラは必ず2羽でいる。番いかどうかはわからないが、1羽が追い出されて飛び出すと鳴き合いながら呼び合う。
- ・ 寒さが厳しくなるとウズラは入ってくる。今年はまだ寒くなっていないからいないのではないか。
- ・ ここ（調査地）では、水田の耕起は4月頃から始まる。それまでは調査が実施できると思う。
- ・ 狩猟者が年々少なくなっている。
- ・ イノシシの個体数が多くなったせいで、ヤマドリ、キジが少なくなった。

千葉県野田市

- ・ 犬はブリティッシュ・スパニエル
- ・ 訓練はせずに、他の犬と一緒に猟に出させ、技術を習得させている。
- ・ 主にタシギ、キジを対象として撃っている。
- ・ 2年前に自分の猟場を見たが、30年来でウズラを見たのはその1回のみ。

- ・ ウズラは寒波が押し寄せて西風が強い日に渡ってくる。
- ・ ウズラは草丈の短い、乾燥した草原に生息するようだ（河川敷のような）。
- ・ 千葉県猟友会は主に鳥を対象としている。四つ足専門の狩猟者は全体で2割程度。
- ・ 味の良くない鳥は狙わず、ヤマシギは不味いので捕らない。カモは足の黒いカモ（マガモ、カルガモ、コガモ）しか捕らない。

（２）平成 22 年の調査時の調査同行者からの聞き取り結果（宮崎県宮崎市）

<ウズラの生息場所>

- ・ 草丈が 10cm 程度の場所によく見られる。
- ・ ウズラは昼のねぐらと夜のねぐらの二つねぐらを持っている。
- ・ 朝一番に餌場において、10 時頃には水場にいる。

<生息状況>

- ・ 昔に比べるとウズラは非常に減った。
- ・ 環境変化によるところが大きいのではないか。
- ・ 昔は非常に個体数が多く、茶畑にも生息していた。
- ・ ウズラの数が減ったのは温暖化や鳥インフルエンザによるところも影響しているのではないか。
- ・ 北の季節風が吹かないので渡ってくる個体が減ったのでは。

<調査への提案>

- ・ 調査時間は朝早いほうが良い。
- ・ ねぐらから出て、採餌する時間帯が良い。